様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月 １２ 日現在

機関番号：１４６０２
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｈ０１８５８

研究課題名（和文）ジェンダー視点に立つ「新しい世界史」の構想と「市民教養」としての構築・発信

研究課題名（英文）gender

研究代表者
三成　美保（MITSUNARI, MIHO）

奈良女子大学・生活環境科学系・教授

研究者番号：６０２０２３４７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　34,600,000円

研究成果の概要（和文）：共同研究の目的は、ジェンダーの視点から「新しい世界史」を構築することであった。そのため、セクシュアリティ、家族、性暴力などに焦点を当てた。これらはいずれも、伝統的な歴史研究であまり注目されてこなかったテーマである。研究会は毎年いくつかのシンポジウムを開催し、各メンバーは研究成果を著書や学術論文として公表した。2014年9月、比較ジェンダー史研究会のウェブサイトを開設した。アクセス数はすでに170万を超えており、最近では、1日あたり2000から3000のアクセスがある。「市民への情報発信」という目的は、十分に達成できた。共同研究の結果は、2021年末に3巻本として出版予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義は、ジェンダー史研究の射程を時間的・空間的に拡大したことである。歴史研究にはいまなおヨーロッパ中心主義が根強いが、ヨーロッパ史研究の成果を尊重しつつ、アジア史研究やイスラーム史研究とのコラボを積極的にはかった。また、ジェンダー研究では近現代の比重が高いが、本研究では「近代」を相対化するためにも、つねに古代から現代までの通史を意識した。社会的意義は、高校歴史教育の現場と情報共有をはかったこと、及び、専用サイトを充実させて「市民教養」としてアクセスしやすい情報提供をはかったことである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of our joint research was to build a "new world history" from a gender perspective. Therefore, we focused on sexuality, family and sexual violence. None of these are topics that have received much attention in traditional historical studies. Our study group held several symposiums every year and each member published the research results as books or academic papers. In September 2014, the website of Comparative Gender History Study Group was opened. The number of accesses has already exceeded 1.7 million. Recently, there are 2000 to 3000 accesses per day. The purpose of "information dissemination to citizens" was fully achieved. We plan to publish three volumes at the end of 2021, which reflect the results of our joint research.

研究分野：ジェンダー法学、ジェンダー史

キーワード：ジェンダー　世界史　歴史教育　高校世界史教科書　比較

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（1）研究の学術的背景

本研究の当初の学術的背景は３点であった。①日本学術会議におけるジェンダー史・ジェンダー法学に関する審議及びシンポジウムの成果、②共同研究成果としての『歴史を読み替える－ジェンダーからみた世界史』の刊行（2014 年 5 月）とその継続発展、③シンポジウム「歴史を読み替える」（2014 年 7 月）における討論とその成果である。

①日本学術会議は、かねてより積極的にジェンダー問題を取り上げており、シンポジウムや刊行物で審議結果を発信してきた。ジェンダー史分科会の発足（第 21 期：2008 年）以降、これまでに３つのシンポジウムを実施している。「歴史教育とジェンダー―教科書からサブカルチャーまで」（2009 年）、「歴史認識を変える―歴史教育改革とジェンダー」（2011 年）、「教養は何の役に立つのか？―ジェンダー視点からの問いかけ」（2013 年）である。3 シンポジウムとも高校・大学における歴史教育の改革を強く訴えかけるものであった。一方、ジェンダー法分科会（第 22 期：2011 年発足）は、「法の世界とジェンダー―司法と立法を変えることはできるのか？」（2014 年）を開催して、ジェンダー法学教育の課題もあわせて検討した。これらのシンポジウムでの報告・討論を経て明らかになった課題は、次の 3 点である。(a)ジェンダー教育は「シティズンシップ(主体的世界市民)」養成教育として位置づけられるべきである。(b)グローバル社会における「共生・公正」を達成するための「市民教養」（高校・大学・生涯教育の全体にわたる教養教育）としてジェンダー史を積極的に位置づけねばならない。(c)そのためにも、グローバル社会にふさわしいジェンダー史の適切な教材を作る必要がある。

②上記①―(c)の課題を実現するために「歴史教育におけるジェンダー視点の導入に関する比較研究と教材の収集及び体系化」(科研費基盤研究(B)2012～2014 年度)にもとづき共同研究をおこない、所期の目標を達成することができた。すなわち、通史としてのジェンダー史テキスト『歴史を読み替える（世界史編）』）を作成し、刊行することができたのである（2014 年）。2015 年には『歴史を読み替える（日本史編）』も刊行した。また、計画通り、世界史編刊行にあわせて、比較ジェンダー史研究会のホームページを 2014 年秋に開設し、同書で不十分な項目を補うようにした。

③以上のような具体的成果を得たものの、書評会を兼ねたシンポジウムでさらなる課題が３つ明らかになった。(a)アジアやアフリカ、東欧など、研究が不十分な地域に関するジェンダー史研究を強化する必要がある。(b)世界の各地域と日本との関係あるいは比較を常に念頭においた世界史の叙述が求められる。それは「ヨコに広がる世界史」であり、交流や対立を含めた「関係の歴史学」であらねばならない。(c)上記(a)(b)をふまえたうえで、なおもヨーロッパ中心主義的な傾向を強く残すジェンダー史を根本的に組み替えるとともに、西洋史ベースで設定されてきた時代区分を見直し、「地球市民のための新しい世界史」を構想しなければならない。

以上 3 点を学術的背景として、本研究では、「関係史／動態史」たる「新しい世界史」としてのジェンダー史を構築することを目指した。

２．研究の目的

研究目的は、「地球市民のための新しい世界史」を構想し、ジェンダー史を「市民教養」として構築・発信することにある。日本学術会議による「分野別質保証」では、「市民性の涵養」が全分野に共通する基本的な柱として設定されている。「能動的な世界市民（active world citizenship）」となるための「新しい教養」には、①ジェンダー平等、②承認と包摂（多文化共生）、③持続可能な社会についての知見が不可欠である。本研究では、これら①～③の問題を歴史的に考察し、成果を高校・大学教養・市民教育に役立つよう発信することを目指した。そのために、本研究グループによる『歴史を読み替える』全 2 冊の内容・執筆者をベースとしたより大規模な共同研究を組織して、比較ジェンダー史研究会サイトやシンポジウム、書籍の形で成果を公表し、当初目的を十分達成することができた。

３．研究の方法

主な研究方法は、おもに以下の３つであり、これらを適宜組み合わせながら共同研究を行った。①共同研究会（比較ジェンダー史研究会）の開催、シンポジウムの開催による意見交換、共同研究者の研究活動による各分野の成果公表にもとづく意見交換、②ジェンダー史に関わる史資料の収集。既存史資料のジェンダー視点による読み替え、③高校歴史教員との意見交換、である。

４．研究成果

（1）2015 年度の成果

2015 年度は、「セクシュアリティ・家族」の問題に焦点をあてて取り組んだ。

①10 月研究会では『性から読む中国史』（S.マン箸、小浜正子他監訳）の合評会を行い、ヨーロッパやイスラームと比較した。

②2016 年 3 月 13 日に公開シンポジウム「セクシュアリティの歴史学」（大阪大学中之島センター）を主催した。同シンポジウムでは、「インドにおける LGBT 研究」（午前）で LGBTI 研究に関してヨーロッパやアフリカとの比較を含めて検討を行い、「戦場の性をめぐって（ミュールホイザー箸、姫岡監訳『戦場の性』合評会）」（午後）ではロシア史と朝鮮史の立場からの批評を加えて、活発な議論を得た。そのほか、「身体と医療」「宗教と家族」などについても全体研究会及

び地域別研究会においてゲストスピーカーを交えて議論を行った。

③今後につながる大きな成果が、日本学術会議公開シンポジウム「歴史教育の明日を探る―『授業・教科書・入試』改革に向けて」（8 月 1 日）である。同シンポジウムでは、本研究会が共催として関わり、本研究会から 6 名の報告者・コメンテーターを出した。ジェンダー視点からの教科書書き換え案、高校歴史教育の現場からの声、教材としての「慰安婦」問題などを具体的に提示した。学術会議として「慰安婦」問題を正面から取り上げたのは本シンポジウムが最初であり、意義が高い。シンポジウムの成果は、『学術の動向』21 巻 5 号（2016 年 5 月）で「特集：歴史教育の明日を探る―「授業・教科書・入試」改革に向けて―」」として公表した（http://jssf86.org/doukou242.html）。本研究会メンバーのものは以下の通りである。「特集の趣旨」（井野瀬久美惠）、「歴史教科書をどう書き換えるか？―ジェンダーの視点から」（三成美保）、「制度の壁か思考の壁か？―暗記オンリーでない歴史の試験をめざして」（桃木至朗）、「「問いをともに考える」世界史へ」（小川幸司）、「『慰安婦』問題」を一般教養講義で語る／組み込むために」（長志珠絵）、「戦後 70 年目の「慰安婦」問題―何をどのように若い世代に伝えるのか」（小浜正子）、「ドイツの歴史教育とホロコーストの記憶文化」（姫岡とし子）。

④研究会メンバーによってもジェンダー史やセクシュアリティに関する多くの業績が公表された。上述 2 点の翻訳書のほか、三成編著『同性愛をめぐる歴史と法』、小浜編著『ジェンダーの中国史』、桃木編著『教育が開く新しい歴史学』などが代表的成果である。『性から読む中国史』『同性愛をめぐる歴史と法』は大手新聞全国紙でも取り上げられた。また、多くのメンバーが国際学会で報告を行い、成果を海外に発信した。

（2）2016 年度の成果

2016 年度は、「共同体・国家」について検討することを目指した。

①国家と性暴力の関係を問うジェンダー法学会シンポジウム「戦時性暴力と法――慰安婦問題と戦後補償」（2016 年 12 月 3 日、於：立命館大学）を共催し、本研究会の成果を発表した。本シンポジウムはジェンダー法学とジェンダー史学のコラボをめざし、企画・趣旨説明、コメント 4 件を本研究会メンバーが担当した。シンポジウム成果は、ジェンダー法学会学会誌『ジェンダーと法』（2017 年 7 月）において公表した。

②教育については、高校新科目「歴史総合」の新設をにらんで、とくに高校教育との連携に重点を置いた。これに関して、2017 年 3 月に公開研究会「ジェンダー史の可能性をさぐる」を開催した。また、ジェンダー史項目の整理をするとともに、研究会で主な担当者を決め、高大連携をはかって高校教員との情報交換を進めた。

（3）2017 年度の成果

2017 年度は研究中間年度としてシンポジウムを開催するとの当初計画を実行した。

①2017 年 12 月にジェンダー史学会において大会シンポジウム「ジェンダー史が拓く歴史教育――ジェンダー視点は歴史的思考をどう鍛えるか？」（於：奈良女子大学）を企画・開催した。ジェンダー史学会でジェンダー史教育を本格的に論じたのは今回が最初である。シンポジウム・テーマとして「高校教育・教科書」を取り上げたのは当初計画に基づく。企画趣旨は、高校の歴史教育改革にジェンダー視点は乏しい点に警鐘を鳴らし、歴史認識を豊かにする必要性を示すことにあった。女性をエンパワメントするためにも、民族やセクシュアリティに関するマイノリティの尊厳を回復するためにもジェンダー史は不可欠であるという認識に基づき、第一部で、高校教育現場での課題をふまえジェンダー史として貢献可能な方向性を示し、第二部では、「家・家族」「植民地支配」「戦争と性暴力」につき、具体的な資料や授業例を提案した。また、第三部では、大学・高校の歴史教育においてジェンダー史が十分に認知され、活用されるために何が必要かについて意見交換を行った。シンポジウムを通して、教育現場で求められていることとジェンダー史研究者に求められていることを確認・共有し、今後、教育と研究が豊かな協力関係を築くための具体的な課題を明らかにできた点が大きな成果であった。

シンポジウム・プログラムは以下の通りであった。「趣旨説明――ジェンダー視点に立つ歴史教育の課題：HP の活用を含めて」（三成）、第 1 部＜歴史教育改革とジェンダー――高校新科目「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」への提案＞「報告 1　ジェンダー視点から見た歴史教育の可能性」（小浜）、「コメント 1：女性史とジェンダー史――ジェンダー射程を考える」（長）、「報告 2：ジェンダー視点をどう取り入れるか？――高校歴史教育の現場から」（ゲスト）、「コメント 2：高校歴史教育で LGBTI をどう教えるか？」（三成）、第 2 部＜歴史を読み替える――ジェンダー視点で鍛える歴史的思考力＞「報告 3：「家／家族」の社会的機能をどう考えさせるか？――前近代日本史から」（久留島）、「報告 4：植民地支配と多様な「近代」――アフリカ史の場

合」（富永）、「報告５：戦争・紛争と性暴力」（成田）、「コメント３：高校歴史教育で慰安婦問題をどう教えるか？」（ゲスト）、第３部＜総合討論――ジェンダー史の可能性＞。ゲスト２名（高校教員）以外はすべて科研費メンバーであり、共同研究成果を十分に公表できた。研究会メンバーの報告では、「テーマ通史」として設定していた「ヒトとモノの移動」に伴う諸現象（交易・文化伝播と支配・侵略・暴力行為など）に焦点をあて、「ジェンダーの動態史」を考えた。総合討論での議論をふまえ、2018 年度以降、「アジアから問うジェンダー世界史」を発信する方向で研究を深めることとした。

②シンポジウム成果は、『ジェンダー史学』第 14 号（2018 年）に「〔特集〕ジェンダー史が拓く歴史教育」として公表した。「企画趣旨：ジェンダー史が拓く歴史教育――ジェンダー視点は歴史的思考力をどう鍛えるか？」（三成美保）、「高校歴史教育改革とジェンダー主流化」（小浜正子）、「ジェンダー視点をどう取り入れるか？――高校歴史教育の現場から」（川島啓一）、「ジェンダー射程からみる歴史教科書とその視覚表現への問い」（長志珠絵）、「高校歴史教育で LGBTI をどう教えるか？」（三成美保）、「「家／家族」の社会的機能をどう考えさせるか？――前近代日本史教科書記述の検討から」（久留島典子）、「植民地支配のジェンダー分析――アフリカ史の場合」（富永智津子）、「戦争と性暴力をめぐること、二つ、三つ」（成田龍一）、「高校で「慰安婦」問題をどう教えるか」（姜聖律）である。

（4）2018 年度の成果

2018 年度には、「歴史認識」「文化」を検討するため、科学史（6 月）、イタリア女性史（12 月）、ミニ国際シンポジウム「アジアから問うジェンダー史」（年度末）を計画しており、これらの計画はすべて実施し、比較ジェンダー史研究会の HP にも記事を掲載した。成果は以下の通りである。

①6 月 16 日（土）に比較ジェンダー史研究会（於：東京大学）を開催し、「ジェンダー・サミット」の主唱者の一人であり、ジェンダー科学史・ジェンダードイノベーション論の世界的研究者であるシービンガー教授（アメリカ）を招聘して、報告「科学における女性とジェンダー に関するグローバル・ヒストリー」と討論を行った。教授の報告資料は、比較ジェンダー史研究会サイトに掲載している。http://ch-gender.jp/wp/?page_id=17352

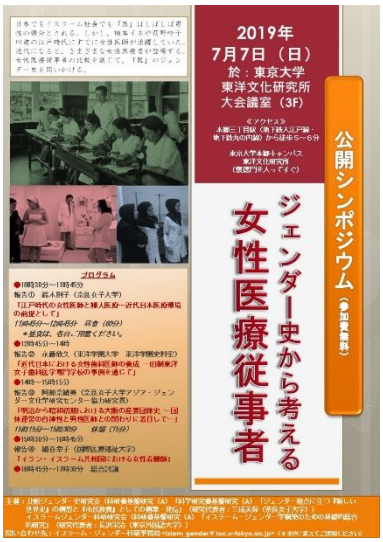
②12 月には、イタリア人の女性史研究者を招聘し、意見交換を行った。

③2019 年 2 月 16 日には、ミニ国際シンポジウム「世界史のなかのアジア・ジェンダー史～その可能性と課題～」（於：奈良女子大学）を開催した。ハノイ国家大学から研究者を招聘し、「ベトナム女性連合―歴史的役割と使命」について講演していただいた。また、インドネシア留学生（博士院生）による日本占領期のインドネシアに関する報告、ゲスト報告者（日本古代史）による古代東アジアにおける婚姻政策に関する報告も得た。全体討論では、アジア・ジェンダー史の論点をまとめ、今後の成果出版に向けて本格的に検討することを決めた。

（5）2019 年度の成果

2019 年度は、５年間の総括として、当初予定通り、国際シンポジウムを開催した。

①医療とジェンダーに関する合同研究会「ジェンダー史から考える女性医療従事者」は、イスラームジェンダー科研研究会との合同で開催した（於：東京大学）。イスラーム研究とのコラボは今後とも続ける予定であり、研究成果として目下計画している３巻本（下記(7)参照）でもイスラームに関する記述を増やすよう工夫した。また、医療への着目は、ジェンダー史研究の射程を広げるために不可欠である。世界の多くの地域で医療従事者には女性比率が高い。2020 年のコロナ禍でもさまざまなジェンダー問題があらわになった。「With コロナ」をジェンダー史の視点から考える手がかりを得たと言える。



②国際シンポジウム「アジアから問うジェンダー史」は２日間で開催した（於：奈良女子大学）。2019 年 12 月 14 日ミニ・シンポジウム「関係性の世界史――ジェンダー視点から問う文化と身体」、翌 15 日国際シンポジウム「アジアから問うジェンダー史――世界史を読み替える」である。ミニ・シンポジウムは二部構成とし、「第一部：文化と覇権構造――ジェンダー視点から」では、「古代アジアにおける仏教とジェンダー」「女子越劇と共産党」、「第二部：見られる身体・見せる身体――ジェンダー視点から」では、「植民地と女性の身体」「戦間期ドイツの美術と「コロニアルな身体」」の報告を得た。国際シンポジウムは、基調講演として、「Notes from the Home Front: Gender and Revolution in One Elite Family」「アジア近代におけるジェンダー変容の論理」とした。午後は二つのセッションからなり、「アジアの多様性から問うジェンダー史の可能性」（報告：イスラーム、モンゴル帝国）と「歴史教科書をジェンダー視点で検討する―アジアを中心に」（報告：高校世界史）」であった。アメリカから研究者を招聘して討論し、現役の高校教員２名にも報告・コメントをいただいて充実したものとなった。

（6）比較ジェンダー史研究会サイト

本科研費共同研究の専用サイトである比較ジェンダー史研究会のサイト（https://ch-gender.jp/wp/）は、現在、800 頁超の充実した内容となっている。アクセス数も順調に伸びている。最近は 1 日 2000～3000 のアクセス件数を数える。2014 年 9 月に開設して以降、171 万件のアクセス数に達した（下表参照。最近の 1 日ごとのアクセス数。ただし、7 月 8 日は午前 3 時時点のもの）。「市民への発信」という本研究の目的は十分に達成できていると言える。なお、セキュリティ対策として、現時点ではサイト上に SNS は設定していない。今後は、動画のアップを行い、いっそう利便性を高める予定である。

（7）今後の展望

本研究会は、科研費基盤研究（B）「『アジア・ジェンダー史』の構築と『歴史総合』教材の開発」（2020～2022 年）として活動を継続する。また、本研究会の 5 年間にわたる成果は、『ひとから問う世界史』全 3 巻として 2021 年度末に出版予定である。第 1 巻『「ひと」とはだれか？――身体・セクシュアリティ・暴力』、第 2 巻『「社会」はどう作られるか？――家族・労働・文化』、第 3 巻『「世界」をどう問うか？――地域・戦争・環境』の構成とし、本研究会メンバーに加えて外部にも執筆依頼を行う予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計81件（うち査読付論文　71件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　20件）

１．著者名 三成美保	４．巻 1134
２．論文標題 「ジェンダー視点から問う所有権」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『法律時報』	６．最初と最後の頁 73-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 三成美保	４．巻 22号
２．論文標題 「SOGI差別解消に向けた地方自治体の取り組み」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『日本ジェンダー研究』	６．最初と最後の頁 37-51頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 久留島典子	４．巻 219
２．論文標題 「総括討論「歴史展示におけるジェンダーを問う」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『国立歴史民俗博物館研究報告』	６．最初と最後の頁 426-428頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 姫岡とし子	４．巻 1149
２．論文標題 「ジェンダーの視点からみたヨーロッパ近代の時代区分」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『思想』	６．最初と最後の頁 73-90頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Momoki Shiro	4．巻 6号
2．論文標題 Tam nhin da tang ve lich su Dai Viet thoi Ly-Tran（「李陳時代大越の歴史に関する多層的な見方」）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Tia Sang so（『光線』http://tiasang.com.vn/-khoa-hoc-cong-nghe/Tam-nhin-da-tang-ve--lich-su-Dai-Viet-thoi-LyTran-15296)	6．最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Momoki Shiro	4．巻 517
2．論文標題 Tinh hinh nghien cuu lich su Viet Nam o Nhat Ban: lich su va dac trung cua bo（「日本におけるベトナム史研究の状況：その歴史と特徴」）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Nghien cuu Lich su （『歴史研究』）	6．最初と最後の頁 3-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小川眞里子	4．巻 17号
2．論文標題 「性差別と縁故主義：スウェーデン医学研究評議会を例に」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『科学技術社会論研究』	6．最初と最後の頁 195-201頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小川眞里子	4．巻 42号
2．論文標題 「三重県における男女共同参画の推進に関わって」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 三重大学春秋会『春秋』	6．最初と最後の頁 27-31頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小川眞里子	４．巻 21号
２．論文標題 「女性研究者の未来予測」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『科哲』	６．最初と最後の頁 28-30頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 井野瀬久美惠	４．巻 989号
２．論文標題 「GEAHSS（ギース）の設立と歴史学研究の質」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『歴史学研究』	６．最初と最後の頁 208-216頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 成田龍一	４．巻 907号
２．論文標題 「『この３０年』をどのように見るのか」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『歴史地理教育』	６．最初と最後の頁 94-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 成田龍一	４．巻 74巻11号
２．論文標題 「方法としての「書き直し」・序説」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『群像』	６．最初と最後の頁 84-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三成美保	4．巻 14
2．論文標題 企画趣旨：ジェンダー史が拓く歴史教育ーージェンダー視点は歴史的思考力をどう鍛えるか？	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ジェンダー史学	6．最初と最後の頁 57-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 三成美保	4．巻 14
2．論文標題 高校歴史教育でLGBTIをどう教えるか	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ジェンダー史学	6．最初と最後の頁 89-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 三成美保	4．巻 15
2．論文標題 企画趣旨［LGBT（性的マイノリティ）の権利保障ーー差別禁止法・理解促進法の動きと今後の課題］	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ジェンダーと法	6．最初と最後の頁 71-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三成美保	4．巻 1134
2．論文標題 ジェンダー視点から問う所有権	5．発行年 2019年
3．雑誌名 法律時報	6．最初と最後の頁 73-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小浜正子	4．巻 14
2．論文標題 高校歴史教育改革とジェンダー主流化	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ジェンダー史学	6．最初と最後の頁 59-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小浜正子	4．巻 127
2．論文標題 中国研究のジェンダー主流化へ向けて	5．発行年 2018年
3．雑誌名 研究中国	6．最初と最後の頁 23-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長志珠絵	4．巻 14
2．論文標題 ジェンダー射程から見る歴史教科書とその視覚表現への問い	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ジェンダー史学	6．最初と最後の頁 86-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 長志珠絵	4．巻 50
2．論文標題 史学思想史としての「女性史」序論	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本思想史学	6．最初と最後の頁 36-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 久留島典子	4．巻 14
2．論文標題 「家／家族」の社会的機能をどう考えさせるか？――前近代日本史教科書記述の検討から	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ジェンダー史学	6．最初と最後の頁 91-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 久留島典子	4．巻 29
2．論文標題 益田氏系図再考―史料編纂所寄託益田氏関係系図の紹介と考察	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6．最初と最後の頁 10-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 富永智津子	4．巻 14
2．論文標題 植民地支配のジェンダー分析――アフリカ史の場合	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ジェンダー史学	6．最初と最後の頁 100-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 成田龍一	4．巻 14
2．論文標題 戦争と性暴力をめぐること、二つ、三つ	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ジェンダー史学	6．最初と最後の頁 107-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 成田龍一	4．巻 2
2．論文標題 「野火」の戦争社会学のために	5．発行年 2018年
3．雑誌名 戦争社会学研究	6．最初と最後の頁 43-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 成田龍一	4．巻 48
2．論文標題 出発点、あるいは原点への遡行――井上ひさしの「戦後」・覚書	5．発行年 2018年
3．雑誌名 社会文学	6．最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 成田龍一	4．巻 26
2．論文標題 半世紀後に読む「天皇の世紀」―大佛次郎の明治維新像	5．発行年 2018年
3．雑誌名 おさらぎ選書	6．最初と最後の頁 15-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小川眞里子	4．巻 18
2．論文標題 医学とジェンダー	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『論集』（三重大学人文学部哲学思想学系教育学部哲学倫理学教室）	6．最初と最後の頁 14-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 姫岡とし子	4．巻 1132
2．論文標題 思想の言葉ー感情史とジェンダー	5．発行年 2018年
3．雑誌名 思想	6．最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 香川檀	4．巻 168
2．論文標題 ベルリン・ダダの戦後受容とハンナ・ヘーヒ――美術研究におけるポストモダンとジェンダー、	5．発行年 2018年
3．雑誌名 美術運動史研究会ニュース	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 久留島典子	4．巻 22-9
2．論文標題 危機に瀕する学術誌ー商業化・電子化・オープン化に伴う諸課題」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『学術の動向』	6．最初と最後の頁 54-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 久留島典子	4．巻 25
2．論文標題 益田家文書研究の可能性	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『しまねの古代文化』	6．最初と最後の頁 100-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 永原陽子	4．巻 5
2．論文標題 永原陽子「20世紀初期南部アフリカの人種化とジェンダー―南ア戦争期の’black peril’と’white peril’―」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『女性とジェンダーの歴史』	6．最初と最後の頁 19-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小川眞里子	4．巻 33-3
2．論文標題 “History of Women’s Participation in STEM Fields in Japan,”	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Asian Women	6．最初と最後の頁 65-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.14431/aw.2017.09.33.3.65	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 村上薫	4．巻 82(3)
2．論文標題 「名誉解釈の多様化と暴力：イスタンブルの移住者社会の日常生活をめぐって」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『文化人類学』	6．最初と最後の頁 328-345
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 成田龍一	4．巻 19
2．論文標題 松本清張『昭和史発掘』の位相	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『松本清張研究』	6．最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長志珠絵・成田龍一・京樂真帆子・松原宏之	4．巻 27号
2．論文標題 「『虫喰う近代』の著者松原宏之氏に聞く」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『女性史学』	6．最初と最後の頁 49-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長志珠絵	4．巻 14号
2．論文標題 史料の発見は歴史認識を転換させるのか	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『ジェンダーと法』	6．最初と最後の頁 95-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三成美保	4．巻 14号
2．論文標題 戦時性暴力と法ー慰安婦問題と戦後補償	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『ジェンダーと法』	6．最初と最後の頁 75-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 富永智津子	4．巻 13号
2．論文標題 「ジェンダー史/女性史の新潮流―サハラ以南アフリカの事例」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『ジェンダー史学』	6．最初と最後の頁 79-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 三成美保	４．巻 19
２．論文標題 セクシュアリティとジェンダー――性的指向の権利保障をめぐって：総論	５．発行年 2016年
３．雑誌名 『日本ジェンダー研究』	６．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 三成美保	４．巻 1875
２．論文標題 LGBT／LGBTIの権利保障――現状と課題	５．発行年 2016年
３．雑誌名 『労働旬報』	６．最初と最後の頁 6-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 三成美保	４．巻 503
２．論文標題 LGBTI差別の歴史と比較から見る日本の課題	５．発行年 2017年
３．雑誌名 『Business Labor Trend』	６．最初と最後の頁 11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 三成美保	４．巻 21-10
２．論文標題 学術・科学技術における男女共同参画の推進ー三つの課題	５．発行年 2016年
３．雑誌名 『学術の動向』	６．最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 三成美保	4．巻 21-5
2．論文標題 歴史教育をどう書き換えるか？ーージェンダーの視点から	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『学術の動向』	6．最初と最後の頁 10-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 久留島典子	4．巻 952
2．論文標題 女性に関する史料は少ないのか	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『歴史学研究』	6．最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 久留島典子	4．巻 198
2．論文標題 日本中世における武家の養子・婚姻戦略	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『歴博』	6．最初と最後の頁 11-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井野瀬久美惠	4．巻 891
2．論文標題 軍事研究とアカデミズム――学術会議は何を「反省」してきたのか	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『世界』	6．最初と最後の頁 128-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井野瀬久美惠	4．巻 21-5
2．論文標題 歴史教育の明日を探る――「授業・教科書・入試」改革に向けて――（特集の趣旨）	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『学術の動向』	6．最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 井野瀬久美惠	4．巻 21-10
2．論文標題 （ジェンダー総特集）日本の「戦略」としてのジェンダー――男女共同参画と次世代育成	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『学術の動向』	6．最初と最後の頁 7-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 井野瀬久美惠	4．巻 21-10
2．論文標題 日本の戦略としての学術・科学技術における男女共同参画――「第4次男女共同感覚基本計画」との関わりで	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『学術の動向』	6．最初と最後の頁 11-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 井野瀬久美惠	4．巻 21-10
2．論文標題 （座談会） 現状と展望：人文・社会科学のための男女共同参画推進	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『学術の動向』	6．最初と最後の頁 85-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 香川檀	4．巻 臨時増刊号
2．論文標題 即物的アルバムと魔術的ヴァニタス――ハンナ・ヘーヒ、〈ポスト・ダダ〉のイメージ思考	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『ユリイカ――特集：ダダ・シュルレアリスムの21世紀』（青土社）	6．最初と最後の頁 280-293
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 香川檀	4．巻 3号
2．論文標題 アートにみる女性作家の暴力表現――ニキ・ド・サンファルとレベッカ・ホルン	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『国立新美術館　研究紀要』	6．最初と最後の頁 324-330
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 香川檀	4．巻 －
2．論文標題 〈ダダの美学〉の今日的意義――スローターダイクの芸術論（「特集：テロリズム時代のアートと美学の役割」）	5．発行年 2017年
3．雑誌名 同志社大学『エコ美学＆科学国際研究センター2016年度研究成果報告集』	6．最初と最後の頁 127-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長志珠絵	4．巻 21-5
2．論文標題 「『慰安婦』問題」を一般教養講義で語る/組み込むために	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『学術の動向』	6．最初と最後の頁 37-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 姫岡とし子	4．巻 21-5
2．論文標題 ドイツの歴史教育とホロコーストの記憶文化	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『学術の動向』	6．最初と最後の頁 48-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 橋本伸也	4．巻 1005
2．論文標題 《特集》中東欧、ロシアの歴史・記憶政治　【概観】　歴史と記憶の「政治化」とその構図	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『ロシア・ユーラシアの経済と社会』	6．最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 橋本伸也	4．巻 39
2．論文標題 ティモシー・スナイダーと『ブラッドランヅ』	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『東欧史研究』	6．最初と最後の頁 64-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 桃木至朗	4．巻 32-15
2．論文標題 Thu phan tich quan che Dai Viet thoi Ly thong qua tai lieu van khac（刻文史料から見た李朝期大越の官制を試みに分析する）	5．発行年 2016年
3．雑誌名 VNU Journal of Science　（『科学雑誌（ハノイ国家大学）』）	6．最初と最後の頁 90-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 鈴木則子	4．巻 創刊号
2．論文標題 近世後期産科医療の展開と女性～賀川流産科をめぐって	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『アジア・ジェンダー文化学研究』	6．最初と最後の頁 5-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長 志珠絵	4．巻 19
2．論文標題 近代家族論と反養子言説	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『日本ジェンダー研究』	6．最初と最後の頁 70-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 横山美和、河野銀子、財部香枝、小川眞里子、大坪久子、大濱慶子	4．巻 2
2．論文標題 「女性研究者増加政策における「パイプライン理論」－2006～2015年のシステマティックレビューの検討から－」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『ポリモルフィア』（九州大学男女共同参画室）	6．最初と最後の頁 94-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三成美保	4．巻 12
2．論文標題 「『ケアとジェンダー』を問う意義」	5．発行年 2015年
3．雑誌名 『ジェンダーと法』	6．最初と最後の頁 5-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長志珠絵	4．巻 27-1
2．論文標題 「国民国家論がたちあがるとき」	5．発行年 2015年
3．雑誌名 『立命館言語文化研究』	6．最初と最後の頁 141-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長志珠絵	4．巻 11
2．論文標題 「防空」のジェンダー-戦前戦後における日本の空襲言説の変容と布置-」	5．発行年 2015年
3．雑誌名 『ジェンダー史学』	6．最初と最後の頁 21-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 橋本伸也	4．巻 62
2．論文標題 「反ファシズム英雄から戦争者への転落と反転----コーノノフ裁判とヨーロッパの歴史・記憶紛争」	5．発行年 2015年
3．雑誌名 『スラブ研究』	6．最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 橋本伸也	4．巻 931
2．論文標題 「歴史と記憶の政治とその紛争化----中東欧・ロシアにおける歴史認識問題とそのグローバル展開 」	5．発行年 2015年
3．雑誌名 『歴史学研究』	6．最初と最後の頁 41-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 桃木至朗	4．巻 1巻1期
2．論文標題 「亞洲東部海域的「貿易時代」與「小農社會」：以越南北部實例為中心」（紀婉淳責任校対）	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『季風亞洲研究』	6．最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 村上薫	4．巻 247
2．論文標題 「日常のなかの名誉―トルコ・イスタンブルの事例から」	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『アジ研ワール ド・トレンド』	6．最初と最後の頁 49-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 香川檀	4．巻 150
2．論文標題 「戦後アートにみる女性の暴力表現――ニキ・ド・サンファルとレベッカ・ホルン」	5．発行年 2015年
3．雑誌名 『美術運動史研究会ニュース』	6．最初と最後の頁 8-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Mayumi Kagawa,	4．巻 なし
2．論文標題 ” Archival Art and the Moment of Counter-memory : Comparing Works by C. Boltanski and S.Sigurdsson ”,	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Liliana Bieszczad(ed.), Practising Aesthetics, Krakow (Poland):Libron,	6．最初と最後の頁 193-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 永原陽子	4．巻 54
2．論文標題 「植民地期ナミビアでの大虐殺に関する対独補償要求」	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『アフリカレポート』	6．最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小川眞里子	4．巻 18
2．論文標題 「科学と女性研究者」	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『ジェンダー研究』（東海ジェンダー研究所）	6．最初と最後の頁 113-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小川眞里子	4．巻 17
2．論文標題 「母性愛と科学」	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『論集』（三重大学人文学部哲学思想学系・教育学部哲学倫理教室）	6．最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 久留島典子	4．巻 28
2．論文標題 「中世後期の武家と婚姻・養子関係―西国を素材にー」	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『黎明館（鹿児島県歴史資料センター）調査研究報告』	6．最初と最後の頁 95-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 成田龍一	４．巻 第43巻第14号
２．論文標題 「2015年7月15日のあとに『1960年5月19日』を読む」	５．発行年 2015年
３．雑誌名 『現代思想』	６．最初と最後の頁 138-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 成田龍一	４．巻 14
２．論文標題 「「証言」の力学―「原爆文学」の1970年代」	５．発行年 2015年
３．雑誌名 『原爆文学研究』	６．最初と最後の頁 283-296
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 成田龍一	４．巻 第43巻第19号
２．論文標題 「見田宗介をめぐってのこと、二つ、三つ」	５．発行年 2016年
３．雑誌名 『現代思想』	６．最初と最後の頁 210-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 成田龍一	４．巻 43
２．論文標題 「「現代の文法」を探るために―2015年の歴史的位相」	５．発行年 2016年
３．雑誌名 『社会文学』	６．最初と最後の頁 44-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 成田龍一	４．巻 29
２．論文標題 「次世代に「知」を伝えるということ-歴史の「知」と歴史学の学知のあいだ」	５．発行年 2016年
３．雑誌名 『自由民権』	６．最初と最後の頁 4-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計101件（うち招待講演　69件／うち国際学会　34件）

１．発表者名 三成美保
２．発表標題 「『未完の改革』としての司法制度改革―『ジェンダー平等』を柱に第二ステージへ」
３．学会等名 法社会学会（於：千葉大学）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 三成美保
２．発表標題 「アジアから問うジェンダー史 ― 新しい世界史を目指して」
３．学会等名 京都大学人社未来形発信ユニット第2回全学シンポジウム「女性がつくるアジア人文学」（於：京都大学）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 三成美保
２．発表標題 「地域を活かす学術研究――ジェンダー視点で問う持続可能社会」
３．学会等名 日本学術会議中部地区会議学術講演会（於：静岡大学）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 久留島典子
２．発表標題 「戦国大名の政治戦略と婚姻関係」
３．学会等名 東北学院大学文学部歴史学科第22回公開講座（於：東北学院大学）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 桃木至朗・猪原達生
２．発表標題 「世界の大学の歴史教育の比較研究から」
３．学会等名 第5回高大連携歴史教育研究会大会パネル②「新しい歴史教育と教員養成」報告３（於：北海学園大学）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Momoki Shiro
２．発表標題 “University History Education in a Country of Craftsmen”, paper for the panel A-1: Common Structures and Issues of East Asian Countries,
３．学会等名 Symposium: Globalozong University History Edcation: Diversity, Trans-borders, Intersectionality (Osaka University Nakanoshima Hall）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 桃木至朗
２．発表標題 「人口と人の移動から見た東南アジアの長期変動～「日本史」「世界史」との対話に向けた論点整理～」
３．学会等名 東南アジア学会第101回研究大会シンポ「東南アジアと日本の長期変動：人口変動・労働移民・少子高齢化」（於：静岡県立大学）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 桃木至朗
２．発表標題 「日本史と世界史をつなぐ：東アジアの勤勉革命・近世化と人口減少・過労死社会の到来を表裏一体の現象として理解できる教科書を目指して」
３．学会等名 国際シンポジウム「アジアから問うジェンダー史――世界史を読み替える」（於：奈良女子大学）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 小川眞里子
２．発表標題 「日本におけるSTEMM分野の女性人材の歴史」
３．学会等名 科学技術社会論学会　シンポジウム「科学技術人材のダイバーシティ研究」（於：金沢工業大学）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 小川眞里子
２．発表標題 「ヴィクトリア時代における医学と医療について」
３．学会等名 科学史学校（日本科学史学会）（於：明治大学）　（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 井野瀬久美恵
２．発表標題 「未完の脱植民地化再考」
３．学会等名 日本西洋史学会シンポジウム（於：静岡大学）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kumie INOSE
２．発表標題 ”De-nationalization of History or Accommodation of National Histories?: Comment”
３．学会等名 International Conference on History for Democracy in the Age of Populism（於：関西学院大学）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 井野瀬久美恵
２．発表標題 「GEAHSS（ギース）の設立と歴史学研究の質」
３．学会等名 歴史学研究会特設部会「歴医学における男女共同参画」（於：立教大学）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 三成美保
２．発表標題 ジェンダーから問う所有権
３．学会等名 基礎法学系学会連合・日本学術会議（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小浜正子
２．発表標題 中国の人口政策
３．学会等名 比較家族史学会第63回春季研究大会（シンポジウム「人口政策」）於：岡山大学（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kaoru Murakami
２．発表標題 Reconsidering Honor: Everyday violence and social position among migrants in Istanbul (Panel: Challenges of Ethnography of Identity and Social Position in the Middle East : Going beyond categories from within)
３．学会等名 World Congress for Middle Eastern Studies Seville 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 香川檀
２．発表標題 パネル「20世紀の人形・摸像・分身――モダニズム芸術における〈肖像〉の諸相」コメンテーター
３．学会等名 表象文化論学会第13回大会（神戸大学）
４．発表年 2018年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 井上ひさしのＰＬＡＹ
３．学会等名 （ＴＰワークショップ（アメリカ合衆国ワシントン大学）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 「明治１５０年」と「６８年」５０年
３．学会等名 France/Japan/Global Workshop　（フランス　パリColumbia University's Reid Hall、主宰　キャロル・グラック）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Momoki Shiro
２．発表標題 “History Education in Japanese Senior High Schools and Its Reform: What Should Be Changed to Help Students ‘Think’ about History”
３．学会等名 International History Education Comparative Research Workshop (国際歴史教育比較研究工作坊), Shanghai, East China Normal University,（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Momoki Shiro
２．発表標題 （原文ベトナム語）「陳朝史の多層的な見方：グローバルヒストリーの方法による新しいアプローチ」）
３．学会等名 （原文ベトナム語） 国際会議「13世紀の世界を背景とした白藤江の戦いと陳朝」ハロン市：クアンニン省立博物館）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Momoki Shiro
２．発表標題 （原文ベトナム語）「李陳時代大越の歴史の多層的な見方：グローバルヒストリーの方法による新しいアプローチ」
３．学会等名 ハノイ師範大学歴史学科講演（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 児玉祥一・桃木至朗・中村薫
２．発表標題 中高接続と高校歴史の用語・概念
３．学会等名 高大連携歴史教育研究会第4回大会シンポジウム2B「歴史的思考力と用語精選・教科書の刷新」（愛工大名電中学校）
４．発表年 2018年

１．発表者名 桃木至朗
２．発表標題 日本史と世界史の統合の難しさと面白さ
３．学会等名 全国歴史教育研究協議会第59回全国大会シンポジウム「新科目“歴史総合”にどう向き合うか」（神戸市・ラッセホール）（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小川眞里子
２．発表標題 近代日本における理系女性の活躍
３．学会等名 三重の女性史研究会　公開全体研修会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小川眞里子
２．発表標題 企画セッション講演「19世紀イギリス公衆衛生史」
３．学会等名 廃棄物資源循環学会　ごみ文化・歴史研究部会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 三成美保
２．発表標題 LGBTI(性的マイノリティ)の権利保障―差別禁止法／理解促進法の動きと今後の課題（趣旨説明）
３．学会等名 ジェンダー法学会大会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 三成美保
２．発表標題 趣旨説明ージェンダー視点に立つ歴史教育の課題
３．学会等名 ジェンダー史学会大会シンポジウム（奈良女子大学）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 三成美保
２．発表標題 高校歴史教育でLGBTIをどう教えるか？
３．学会等名 ジェンダー史学会大会シンポジウム（奈良女子大学）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 三成美保
２．発表標題 LGBTI（いわゆる性的少数者）の権利保障をめぐって ―国際比較から見る日本の課題
３．学会等名 神戸女学院大学 女性学インスティチュート主催 特別講演会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 姫岡とし子
２．発表標題 歴史教育とジェンダー
３．学会等名 日本西洋史学会小シンポジウム「思考力育成型歴史教育への転換と大学入試改革をどう進めるか」（一橋大学）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 久留島典子
２．発表標題 「家／家族」の社会的機能をどう考えさせるか？－前近代日本史からー
３．学会等名 ジェンダー史学会大会シンポジウム（奈良女子大学）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 久留島典子
２．発表標題 益田家文書研究の可能性
３．学会等名 「石見の戦国武将」展特別講演会（島根県益田市グラントワ）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 戦争・紛争と性暴力
３．学会等名 ジェンダー史学会大会シンポジウム（奈良女子大学）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 日本の日本、アメリカの日本
３．学会等名 「Ｖ．コシュマン教授退官記念　秩序と反秩序」（コーネル大学・アメリカ（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 ２１世紀に、大江健三郎「政治少年死す」を読む
３．学会等名 European Association for Japanese Studies、２０１７年８月３１日、リスボン（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 総括に向けて
３．学会等名 韓国・西江大学校（ソウル）「グローバルな記憶空間としてのアジア」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 近代のなかの「戦後」／「戦後」のなかの明治
３．学会等名 国際シンポジウム「戦後日本文化再考」（国際日本文化研究センター）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 村上薫
２．発表標題 企画セッション「イスラーム・ジェンダー学の未来：セクシュアリティにみる国家・宗教・ジェンダー」へのコメント
３．学会等名 日本中東学会第33回年次大会（九州大学）
４．発表年 2017年

１．発表者名 長志珠絵
２．発表標題 女性史とジェンダー史――ジェンダー射程を考える
３．学会等名 ジェンダー史学会大会シンポジウム（奈良女子大学）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 長志珠絵
２．発表標題 思想史の場としての「女性史」
３．学会等名 日本思想史学会創立50周年記念シンポジウムセッション3＜日本思想とジェンダー＞
４．発表年 2017年

１．発表者名 富永智津子
２．発表標題 アフリカにおけるLGBTの過去と現在
３．学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会（信州大学）
４．発表年 2017年

１．発表者名 富永智津子
２．発表標題 植民地支配のジェンダー分析―アフリカの事例から
３．学会等名 ジェンダー史学会大会シンポジウム（奈良女子大学）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 桃木至朗
２．発表標題 新科目「歴史総合」と世界史教育の未来
３．学会等名 第51回愛知県世界史研究会講演（愛知大学）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 桃木至朗
２．発表標題 Nguy co va Cai cach cua Giao duc Lich su Cap PTTH va Dai hoc o Nhat Ban Hien dai（現代日本における高校・大学レベルの歴史教育の危機と改革）
３．学会等名 International Symposium: “Reforming Teaching History in School: International Experiences and Implications for Vietnam”, Vinh Yen: Song Hong Resort, Sept.14, 2017.（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 小川眞里子
２．発表標題 ジェンダーは科学にどうかかわるか
３．学会等名 第76回　日本医学放射線学会総会・JAWRO特別講演（パシフィコ横浜）　（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 小川眞里子
２．発表標題 EUにおける女性研究者支援の実態と支援政策について
３．学会等名 科学技術社会論学会（九州大学）
４．発表年 2017年

１．発表者名 小川眞里子
２．発表標題 科学技術とジェンダー
３．学会等名 第4回澤柳記念賞　受賞講演（東北大学）（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 三成美保
２．発表標題 国立大学における人文社会科学の役割と今後の課題
３．学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 三成美保
２．発表標題 戦時性暴力と法―慰安婦問題と戦後補償：趣旨説明
３．学会等名 ジェンダー法学会第14回学術大会シンポジウム「戦時性暴力と法―慰安婦問題と戦後補償」（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 姫岡とし子
２．発表標題 The Women’s Suffrage Movement and Japanese Modernization in the East Asian Context
３．学会等名 Workshop “Post-Colonial Feminisms: Perspectives from Egypt, India, and Japan”（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 姫岡とし子
２．発表標題 Struggle and Difficulties of Women’s Vote from Comparative Perspective
３．学会等名 Internationale Tagung, 50 Jahre Frauenwahlrecht（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 姫岡とし子
２．発表標題 コメント：ドイツにおける「記憶」と戦時性暴力
３．学会等名 ジェンダー法学会第14回学術大会シンポジウム「戦時性暴力と法―慰安婦問題と戦後補償」（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 久留島典子
２．発表標題 学術資産とデジタルアーカイブズ
３．学会等名 日本デジタル・ヒューマニティー ズ学会JADH2016プレシンポジウム（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 久留島典子
２．発表標題 日本における『知』の蓄積と共有ー日本史史料の所蔵のあり方から考え る
３．学会等名 東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門主催シンポジ ウム
４．発表年 2017年

１．発表者名 香川檀
２．発表標題 人文科学の研究対象としての〈人形〉――美術史・芸術論との関係を中心に
３．学会等名 東京大学大学院総合科学研究科 表象文化論研究会
４．発表年 2016年

１．発表者名 香川檀
２．発表標題 ハンナ・ヘーヒの《アルバム》――写真スクラップに見る知覚の実験
３．学会等名 国際シンポジウム「アヴァンギャルドの知覚」ラウンドテーブル「不透明なガラス２」（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 香川檀(Mayumi Kagawa)
２．発表標題 “Photographic scrapbooks and image-thinking:　On Hannah Hoech’s Album”,
３．学会等名 第20回国際美学会（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 香川檀
２．発表標題 ダダの美学の今日的意義――スローターダイクの芸術論
３．学会等名 第67回美学会全国大会シンポジウム報告「特集：テロリズム時代のアートと美学の役割
４．発表年 2016年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 記憶の場の「戦後」
３．学会等名 東アジアと日本語　同時代フォーラム
４．発表年 2016年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 金コウ;報告に対する討論
３．学会等名 第１６回日韓・韓日歴史家会議
４．発表年 2016年

１．発表者名 富永智津子
２．発表標題 「脱帝国のフェミニズム」に向けて―マウマウ戦争と植民地支配のレガシー
３．学会等名 イギリス女性史研究会シンポジウム「植民地戦争におけるセクシュアリティとジェンダー」
４．発表年 2016年

１．発表者名 粟屋利江
２．発表標題 インドにおける近代史研究の地平から
３．学会等名 政経史学会総合研究会
４．発表年 2016年

１．発表者名 桃木至朗
２．発表標題 用語リストにもとづく教科書記述の例示
３．学会等名 東南アジア学会第95回研究大会パネル１「高校世界史における東南アジア関係用語の厳選　その３」
４．発表年 2016年

１．発表者名 桃木至朗
２．発表標題 研究と教育をつなぐ歴史学入門講義
３．学会等名 高大連携歴史教育研究会第5部会研究会「大学の教養教育と教員養成を考える―高大接続の入口と出口」
４．発表年 2016年

１．発表者名 桃木至朗
２．発表標題 アジアを正当に位置づけ自国史を完全に組み込んだ世界史を目ざして
３．学会等名 第16回日韓歴史家会議「現代社会と歴史学」第2セッション「歴史教育の新しい動きと歴史学」（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 桃木至朗
２．発表標題 Land Categories and Taxation Systems in Dai Viet from the Tenth to the Fourteenth Century: A New Perspective From Goryeo and Early-Medieval Japan
３．学会等名 Vietnam and Korea as "Longue Duree" Subject of Comparison: From the Pre-modern to the Early Modern Periods（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 桃木至朗
２．発表標題 Tinh hinh nghien ciru lich sir Viet Nam tai Nhat Ban:Lich sir dac tru g cua no(日本におけるベトナム史研究の状況：その歴史と特徴)
３．学会等名 ベトナム科学技術発展基金シンポジウム（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 小川眞里子
２．発表標題 科学史から見た男女総活躍の意義
３．学会等名 第46回日本腎臓学会東部学術大会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 小川眞里子
２．発表標題 History of Female Participation in Science and Engineering in Japan
３．学会等名 2016 RIAW International Conference: Women and Gender in Science & Engineering（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 永原陽子
２．発表標題 南アフリカの"Rhohes Must Fall"運動とその後
３．学会等名 DOSC同志社大学植民地主義研究会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 永原陽子
２．発表標題 Land and “Tradition”: Authorities, Border and Gender in Namibia
３．学会等名 Land, the State and Decolonizing the Agrarian Structure in Africa--A colloquium in Honour of Professor Sam Moyo（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 永原陽子
２．発表標題 20 世紀初期南部アフリカ社会の人種化とジェンダー ―南ア戦争期の” black peril ” と” white peril ”
３．学会等名 イギリス女性史研究会・第 27 回研究会　シンポジウム 「植民地戦争における セクシュアリティとジェンダー ――帝国だったイギリスの過去を問い直す（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 橋本伸也
２．発表標題 Some impressions and comments to “Disputed Territories and Shared Past: Overlapping National Histories in Modern Europe”.
３．学会等名 Review Forum for Critical Global Studies Institute, Sogang University, Seoul（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 長志珠絵
２．発表標題 コメント　戦後日本史研究における到達点
３．学会等名 ジェンダー法学会第14回学術大会シンポジウム「戦時性暴力と法―慰安婦問題と戦後補償」（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Masako KOHAMA
２．発表標題 “Birth Planning and Transformation of Rural Families in China”,　Panel: Migration of Women between Urban and Rural Areas in Asia and the Trans-formation of Patriarchy,
３．学会等名 The Thir3rd Congress of the Asian Association of World Historians(AAWH2015)（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Toshie　AWAYA
２．発表標題 ”The Meaning of Migration for Dalit Women in Modern India: From their Autobiographies”
３．学会等名 3rd　Congress of the Asian Association of World Historians(AAWH2015)（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Shirou MOMOKI
２．発表標題 “How to Teach World History in Japan, in Which Asia Is Well Positioned and Japan Is Fully Incorporated”, paper for panel 3-4: Teaching Asian History to Students and Teachers within New Frameworks of Subjects and Curriculums,
３．学会等名 3rd　Congress of the Asian Association of World Historians(AAWH2015)（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Shirou MOMOKI
２．発表標題 "What Epigraphic Sources Tell about Social Change in Dai Viet(大越)　during the 14th-15th Centuries”, paper for panel 4.4: The End of the Charter Era in Eastern Eurasia: Social and Economic Changes in Japan, Korea and Dai Viet during the 14th to 15th Centuries,
３．学会等名 3rd　Congress of the Asian Association of World Historians(AAWH2015)（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Shirou MOMOKI
２．発表標題 ”Revisiting the Fourteenth-Century Crisis of & Dai Viet Against the Background of the Yuan-Ming Transition in Eastern Eurasia”, paper presented at Global History Workshop:
３．学会等名 “Globalization from East Asian Perspectives” (organized by the 9th Division of IAI, Osaka University,（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Noriko KURUSHIMA
２．発表標題 “Changes in the Japanese Society in the 14th and 15th centuries: the Formation of the “Ie””, paper for panel: The End of the Charter Era in Eastern Eurasia: Social and Economic Changes in Japan, Korea and Dai Diet during the 14th to 15th Centuries,
３．学会等名 3rd Congress of the Asian Association of World Historians(AAWH2015)（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Noriko KURUSHIMA
２．発表標題 “Adoption and marriage as military strategies： warrior houses in 16th century Sengoku (country at war) Japan”, paper for panel: Family Strategy in Times of War and Violence,
３．学会等名 9th International Convention of Asia Scholars (ICAS)（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Yoko Nagahara
２．発表標題 Colonial Memory and National History: Namibian-German and Korean-Japanese relationship in comparison
３．学会等名 Workshop on “Colonial Memories: Comparative Perspective on German, Japanese, and Korean Cases”（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Yoko Nagahara,
２．発表標題 South African Black Soldiers/Labourers in World War I
３．学会等名 Captives, recruited, migrants: Empires and labor mobilization, 17th century to present days (EHESS, Paris)（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 小川眞里子
２．発表標題 「近代科学の歴史とジェンダー」
３．学会等名 東北大学第12回男女共同参画シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 長志珠絵
２．発表標題 「「慰安婦」問題をめぐる1991年以前」
３．学会等名 女性・戦争・人権学会年次大会（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 桃木至朗
２．発表標題 「「東アジア世界論」を超えて－日本史を救う／日本史が創る新しいアジア史」
３．学会等名 静岡歴史教育研究会（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 桃木至朗
２．発表標題 「金石文から見た中世ベトナムの国家・社会」
３．学会等名 東方学会平成27年度秋季学術大会報告（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 香川檀
２．発表標題 「戦後アートにみる女性の暴力表現」
３．学会等名 ニキ・ド・サンファル展関連国際シンポジウム「戦後美術史における女性作家の活動」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 三成美保
２．発表標題 「歴史教科書をどう書き換えるか？－ジェンダーの視点から」
３．学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「歴史教育の明日を探るー『授業・教科書・入試』改革に向けて」（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 桃木至朗
２．発表標題 「制度の壁か思考の壁か？－暗記オンリーでない歴史の試験をめざして」
３．学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「歴史教育の明日を探るー『授業・教科書・入試』改革に向けて」（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 長志珠絵
２．発表標題 「教材実例としての『慰安婦』問題ー研究の到達点を踏まえた教育実践と市民の育成：報告１」
３．学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「歴史教育の明日を探るー『授業・教科書・入試』改革に向けて」（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 小浜正子
２．発表標題 「教材実例としての『慰安婦』問題ー研究の到達点を踏まえた教育実践と市民の育成：報告２」
３．学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「歴史教育の明日を探るー『授業・教科書・入試』改革に向けて」（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 姫岡とし子
２．発表標題 「教材実例としての『慰安婦』問題ー研究の到達点を踏まえた教育実践と市民の育成：コメント」
３．学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「歴史教育の明日を探るー『授業・教科書・入試』改革に向けて」（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 井野瀬久美恵
２．発表標題 「趣旨説明」
３．学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「歴史教育の明日を探るー『授業・教科書・入試』改革に向けて」（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 三成美保
２．発表標題 「問題提起３」
３．学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「人文・社会科学と大学のゆくえ」（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 井野瀬久美恵
２．発表標題 「問題提起」
３．学会等名 日本学術会議学術フォーラム「日本の戦略としての学術・科学技術における男女共同参画ー『第4次男女共同参画基本計画』との関わりで」（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 三成美保
２．発表標題 「コメント６」
３．学会等名 日本学術会議学術フォーラム「日本の戦略としての学術・科学技術における男女共同参画ー『第4次男女共同参画基本計画』との関わりで」（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 粟屋利江
２．発表標題 「インドにおけるＬＧＢＴ研究・運動動向」
３．学会等名 比較ジェンダー史研究会公開シンポジウム「セクシュアリティの歴史学」
４．発表年 2016年

１．発表者名 橋本伸也・宋連玉・姫岡とし子
２．発表標題 「シンポジウム：戦場の性をめぐって（合評会）」
３．学会等名 比較ジェンダー史研究会公開シンポジウム「セクシュアリティの歴史学」
４．発表年 2016年

１．発表者名 三成美保
２．発表標題 「持続可能な社会とジェンダーー『ジェンダー公正』をめざして」
３．学会等名 早稲田大学比較法研究所プロジェクト「持続可能な社会と社会法・ジェンダー法」（招待講演）
４．発表年 2015年

〔図書〕　計60件

１．著者名 三成美保（編）	４．発行年 2019年
２．出版社 晃洋書房	５．総ページ数 本文203頁＋資料14頁
３．書名 『LGBTIの雇用と労働ーー当事者の困難とその解決方法を考える』、	

１．著者名 三成美保（共著）	４．発行年 2019年
２．出版社 かもがわ出版	５．総ページ数 157頁（三成担当：25-34頁）
３．書名 LGBT法連合会編『日本と世界のLGBTの現状と課題ーーSOGIと人権を考える』（三成美保「LGBTIの包括的権利保障をめざしてーー日本学術会議提言を中心に」を担当）	

１．著者名 三成美保・笹沼朋子・立石直子・谷田川知恵	４．発行年 2019年
２．出版社 法律文化社	５．総ページ数 302頁
３．書名 『ジェンダー法学入門（第3版）』	

１．著者名 牧野久美子・岩崎えり奈編（村上薫他）	４．発行年 2019年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 471頁（村上担当：273-293頁）
３．書名 『新　世界の社会福祉第11巻』（村上薫「トルコ」を担当）	

１．著者名 秋田茂・桃木至朗（編）	４．発行年 2020年
２．出版社 大阪大学出版会	５．総ページ数 351頁（桃木担当：1-17、318-344）
３．書名 『グローバルヒストリーから考える新しい大学歴史教育――日本史と世界史のあいだで――』	

１．著者名 田辺明生・竹沢泰子・成田龍一（編）	４．発行年 2020年
２．出版社 京都大学学術出版会	５．総ページ数 423頁
３．書名 『環太平洋地域の移動と人種』	

１．著者名 小森陽一・成田龍一（編）	４．発行年 2020年
２．出版社 集英社	５．総ページ数 334頁
３．書名 『「井上ひさし」を読む』	

１．著者名 成田龍一（共著）	４．発行年 2019年
２．出版社 三人社	５．総ページ数 603頁（成田担当：48-73）
３．書名 坪井秀人編『戦後日本文化再考』（成田龍一「近代のなかの「戦後」／「戦後」」）のなかの明治	

１．著者名 富永智津子（共著）	４．発行年 2018年
２．出版社 講談社現代新書	５．総ページ数 776頁（担当635~650頁）
３．書名 宮本正興・松田素二編『新書アフリカ史』（富永智津子「アフリカ史をジェンダー視点で切り取る」	

１．著者名 粟屋利江（共著）	４．発行年 2019年
２．出版社 山川出版社	５．総ページ数 632頁（担当177-200、317-325頁）
３．書名 長崎暢子編『世界歴史体系　南アジア　第4巻　近代・現代』（粟屋利江「第一次世界大戦から独立までの社会・文化」「補説：ジェンダー」）	

１．著者名 三成美保（共著）	４．発行年 2019年
２．出版社 敬文舎	５．総ページ数 351頁（担当11-54頁）
３．書名 奈良女子大学生活文化研究会編『ジェンダーで問い直す暮らしと文化ー新しい生活文化学への挑戦』（三成美保「総論ージェンダー視点が拓く生活文化学の新たな地平」）	

１．著者名 成田龍一	４．発行年 2019年
２．出版社 集英社新書	５．総ページ数 494頁
３．書名 『近現代日本史との対話　【幕末・維新―戦前編】』	

１．著者名 成田龍一	４．発行年 2019年
２．出版社 集英社新書	５．総ページ数 558頁
３．書名 『近現代日本史との対話　【戦中・戦後―現在編】』	

１．著者名 三成 美保（編著）	４．発行年 2017年
２．出版社 青弓社	５．総ページ数 314頁
３．書名 教育とLGBTIをつなぐー学校・大学の現場から考える	

1．著者名 三成美保（共著）	4．発行年 2017年
2．出版社 大月書店	5．総ページ数 392頁
3．書名 歴史学研究会編『歴史学が挑んだ課題ー継承と展開の50年』	

1．著者名 上野 千鶴子、佐藤 文香、姫岡 とし子、山下 英愛、岡田 泰平、平井 和子、成田 竜一、木下 直子、樋口 恵子、茶園 敏美、蘭 信三、猪股 祐介	4．発行年 2018年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 384頁
3．書名 戦争と性暴力の比較史へ向けて	

1．著者名 小浜 正子、下倉 渉、佐々木 愛、高嶋 航、江上 幸子	4．発行年 2018年
2．出版社 京都大学学術出版会	5．総ページ数 486頁
3．書名 中国ジェンダー史研究入門	

1．著者名 永原陽子（共著）	4．発行年 2017年
2．出版社 績文堂出版	5．総ページ数 303頁（担当79-94頁）
3．書名 歴史学研究会編『新自由主義時代の歴史学 ： 第4次現代歴史学の成果と課題 1』	

１．著者名 中野敏男、板垣竜太、金昌禄、岡本有佳、金富子（編著）（分担執筆：永原陽子）	４．発行年 2017年
２．出版社 大月書店	５．総ページ数 312頁（担当254-257頁）
３．書名 「慰安婦」問題と未来への責任	

１．著者名 桃木至朗（監修）、藤村泰夫、岩下哲典（編）	４．発行年 2017年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 464頁
３．書名 『地域から考える世界史』	

１．著者名 富永智津子（共著）	４．発行年 2017年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 280頁（担当256-270頁）
３．書名 服藤早苗、新實五穂（編）『歴史のなかの異性装』	

１．著者名 村上薫（編著）	４．発行年 2018年
２．出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	５．総ページ数 245頁
３．書名 『不妊治療の時代の中東：家族をつくる、家族を生きる』	

１．著者名 村上薫（編著）	４．発行年 2018年
２．出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	５．総ページ数 79頁
３．書名 「中東における家族の変容」研究会調査報告書	

１．著者名 村上薫（共著）	４．発行年 2018年
２．出版社 樹花舎	５．総ページ数 284頁（担当147-161頁）
３．書名 榎本泰子編『アジアと生きる　アジアで生きる』	

１．著者名 成田龍一	４．発行年 2016年
２．出版社 河出書房新社	５．総ページ数 200頁
３．書名 『「戦後」はいかに語られるか』	

１．著者名 橋本伸也	４．発行年 2016年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 241頁
３．書名 『記憶の政治-----ヨーロッパの歴史認識紛争』	

1．著者名 秋田茂・桃木至朗共編著	4．発行年 2016年
2．出版社 大阪大学出版会	5．総ページ数 360頁
3．書名 『グローバルヒストリーと戦争』	

1．著者名 秋田茂・永原陽子・羽田正・南塚信吾・三宅明正・桃木至朗共編著	4．発行年 2016年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 453頁
3．書名 『世界史叢書総論　「世界史」の世界史』	

1．著者名 小浜正子・秋山洋子編	4．発行年 2016年
2．出版社 勉誠出版	5．総ページ数 247頁
3．書名 『現代中国のジェンダー・ポリティクス：格差・性売買・「慰安婦」』	

1．著者名 小浜正子（共著）	4．発行年 2016年
2．出版社 研文出版	5．総ページ数 312頁（担当7-15頁）
3．書名 中国女性史研究会編『中国のメディア・表象とジェンダー』	

１．著者名 小浜正子（共著）	４．発行年 2017年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 309頁（担当3-33頁）
３．書名 松岡悦子編『子どもを産む・家族をつくる人類学－オールターナティブへの誘い』	

１．著者名 小浜正子（共著）	４．発行年 2016年
２．出版社 東方書店	５．総ページ数 237頁（担当149-158頁）
３．書名 中村元哉・大澤肇・久保亨編『現代中国の起源を探る－史料ハンドブック』	

１．著者名 小浜正子（共著）	４．発行年 2016年
２．出版社 中国社会科学出版社	５．総ページ数 600頁（担当542-561頁）
３．書名 郭瑩・唐仕春主編『社会文化与近代中国社会転型』	

１．著者名 小川眞里子（共著）	４．発行年 2016年
２．出版社 新曜社	５．総ページ数 436頁（担当137-162頁）
３．書名 柿原泰・ 加藤茂生・川田勝編『村上陽一郎の科学論　批判と応答』	

１．著者名 小川眞里子（共著）	４．発行年 2017年
２．出版社 三重大学出版会	５．総ページ数 176頁（担当1-14頁）
３．書名 『愛の探究ーー東西の思索をたずねて』	

１．著者名 三成美保（編著）	４．発行年 2015年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 317頁
３．書名 『同性愛をめぐる歴史と法ー尊厳としてのセクシュアリティ』	

１．著者名 長志珠絵（共著）	４．発行年 2015年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 317頁（担当114-121頁）
３．書名 『同性愛をめぐる歴史と法ー尊厳としてのセクシュアリティ』	

１．著者名 三成美保（共著）	４．発行年 2015年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 256頁（担当119-131頁）
３．書名 水井万里子他編『世界史のなかの女性たち』	

１．著者名 三成美保（共著）	４．発行年 2016年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 289頁（担当167-179頁）
３．書名 水井万里子他編『女性から描く世界史ー17～20世紀への新しいアプローチ』	

１．著者名 三成美保（共著）	４．発行年 2016年
２．出版社 国際書院	５．総ページ数 413頁（担当145-154頁）
３．書名 小野博司・出口雄一・松本尚子編『戦時体制と法学者ー1931～1952』	

１．著者名 鈴木則子(共著)	４．発行年 2015年
２．出版社 思文閣出版	５．総ページ数 301頁（担当159-167頁）
３．書名 中島文書研究会編『備前岡山の在村医　中島家の歴史』	

１．著者名 小浜正子（編著）	４．発行年 2015年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 295頁
３．書名 『ジェンダーの中国史』（アジア遊学191）	

１．著者名 成田龍一（共編著）	４．発行年 2015年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 290頁
３．書名 成田龍一・吉田裕編『記憶と認識の中のアジア・太平洋戦争』岩波講座アジア太平洋戦争補巻	

１．著者名 長志珠絵（共著）	４．発行年 2015年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 290頁（長担当[共著]223-255頁）
３．書名 成田龍一・吉田裕編『記憶と認識の中のアジア・太平洋戦争』岩波講座アジア太平洋戦争補巻	

１．著者名 村上薫（編著）	４．発行年 2016年
２．出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	５．総ページ数 64頁（担当55-64頁）
３．書名 『中東イスラー ム諸国における生殖医療と家族』	

１．著者名 香川檀（共著）	４．発行年 2015年
２．出版社 竹林舎	５．総ページ数 478頁（担当384-406頁）
３．書名 尾崎幸（編著）『西洋近代の都市と芸術　５：ベルリン―砂上のメトロポール』	

１．著者名 香川檀（編著）	４．発行年 2016年
２．出版社 水声社	５．総ページ数 338頁（担当11-19、282-322頁）
３．書名 『人形の文化史―ヨーロッパの諸相から』	

１．著者名 永原陽子（共著）	４．発行年 2015年
２．出版社 山川出版社	５．総ページ数 244頁（担当12-44）
３．書名 公益財団法人史学会（編）　『災害・環境から戦争を読む』	

１．著者名 永原陽子（共編著）	４．発行年 2016年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 388頁
３．書名 水野一晴・永原陽子（編著）『ナミビアを知るための53章』	

１．著者名 永原陽子（共著）	４．発行年 2016年
２．出版社 Langaa	５．総ページ数 388頁（担当133-176頁）
３．書名 Sam Moyo and Yoichi Mine(eds.) What Colonialism Ignored: African Potentials:' African Potentials' for Resolving Conflicts in Southern Africa	

１．著者名 成田龍一	４．発行年 2015年
２．出版社 講談社	５．総ページ数 458頁
３．書名 『加藤周一を記憶する』	

１．著者名 成田龍一	４．発行年 2015年
２．出版社 河出書房新社	５．総ページ数 235頁
３．書名 『戦後史入門』	

１．著者名 成田龍一（共著）	４．発行年 2015年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 277頁
３．書名 小森陽一、成田龍一、本田由紀　『岩波新書で「戦後」を読む』	

１．著者名 成田龍一（共著）	４．発行年 2016年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 352頁（担当197-230頁）
３．書名 『岩波講座　日本歴史』第22巻	

１．著者名 粟屋利江（共著）	４．発行年 2016年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 280頁（担当97-120頁）
３．書名 宇山智彦（編）『ユーラシア近代帝国と現代世界』（シリーズ・ユーラシア地域大国論４）	

１．著者名 小浜正子（監訳）	４．発行年 2015年
２．出版社 平凡社	５．総ページ数 316頁
３．書名 スーザン・マン著、小浜正子・Ｌ.グローブ監訳、秋山洋子・板橋暁子・大橋史恵訳『性からよむ中国史－男女隔離・纏足・同性愛』	

１．著者名 桃木至朗（編著）	４．発行年 2015年
２．出版社 山川出版社	５．総ページ数 223頁
３．書名 大阪大学歴史教育研究会・公益財団法人史学会編（責任編集：桃木至朗）『史学会125周年リレーシンポジウム１　教育が開く新しい歴史学』	

１．著者名 小浜正子（共著）	４．発行年 2015年
２．出版社 山川出版社	５．総ページ数 223頁（担当86-103頁）
３．書名 大阪大学歴史教育研究会・公益財団法人史学会編（責任編集：桃木至朗）『史学会125周年リレーシンポジウム１　教育が開く新しい歴史学』	

１．著者名 Kumie Inose（共著）	４．発行年 2016年
２．出版社 Singapore: NUS Press,	５．総ページ数 312頁（担当50-71頁）
３．書名 Hideaki Suzuki (ed.), Abolitions as a Global Experience	

１．著者名 久留島典子（共著）	４．発行年 2015年
２．出版社 お茶の水書房	５．総ページ数 252頁（担当129-141頁）
３．書名 早川紀代（他編）『歴史をひらく―女性史・ジェンダー史からみる東アジア世界』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

比較ジェンダー史研究会（本科研費研究会の公式WEBサイト）
http://ch-gender.jp/wp/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	姫岡　とし子 (Himeoka Toshiko) (80206581)	奈良女子大学・アジア・ジェンダー文化学研究センター・協力研究員 (14602)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小浜　正子 (Kohama Masako) (10304560)	日本大学・文理学部・教授 (32665)	
研究分担者	井野瀬　久美惠 (Inose Kumie) (70203271)	甲南大学・文学部・教授 (34506)	
研究分担者	長　志珠絵 (Osa Shizue) (30271399)	神戸大学・国際文化学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	久留島　典子 (Kurusima Noriko) (70143534)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	
研究分担者	村上　薫 (Murakami Kaoru) (00466062)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・新領域研究センター　ジェンダー・社会開発研究グループ・研究グループ長代理 (82512)	
研究分担者	香川　檀 (Kagawa Mayumi) (10386352)	武蔵大学・人文学部・教授 (32677)	
研究分担者	鈴木　則子 (Suzuki Noriko) (20335475)	奈良女子大学・生活環境科学系・教授 (14602)	
研究分担者	粟屋　利江 (Awaya Toshie) (00201905)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	桃木　至朗 (Momoki Shirou) (40182183)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	小川　眞里子 (Ogawa Mariko) (00185513)	三重大学・人文学部・名誉教授 (14101)	
研究分担者	成田　龍一 (Narita Ryuichi) (60189214)	日本女子大学・人間社会学部・教授 (32670)	
研究分担者	永原　陽子 (Nagahara Yoko) (90172551)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	富永　智津子 (Tominaga Chizuko) (90217547)	宮城学院女子大学・付置研究所・研究員 (31307)	
研究分担者	橋本　伸也 (Hashimoto Shinya) (30212137)	関西学院大学・文学部・教授 (34504)	2015～2016年度は研究分担者、2017年度以降は研究協力者として研究に協力した。
研究分担者	羽場　久美子 (Haba Kumiko) (70147007)	青山学院大学・国際政治経済学部・教授 (32601)	2015年度のみ研究分担者として研究に協力した。